



笹中だより

伊丹市立笹原中学校 学校通信
第7号 令和元年7月19日
編集責任者 校長 菰口太志

【 どうなる？ 2020 大学入試改革 】 ～ 小中高生が準備すべきこと ～

〔朝日新聞 EduA〕(2019年6月23日号)で、タイトルの記事が載っていました。今、中学生のみなさんにとっても、大切で、興味深い内容でしたので、概要だけをお伝えします。

明日から長い夏休みが始まります。家の人も相談しながら、何か1つでも準備を始めてみてはどうでしょうか。保護者の皆様も、ぜひ、お子様とご家庭でお話をいただければありがたいです。

<< 鎌田薫・早大前総長基調講演から >>

①2020年度から始まる教育改革は、「知識詰め込み型」から、「思考力・判断力・表現力をそなえ、主体的に学ぶ」教育への転換を目指しており、それに伴って、大学入試も変わる。

②教育改革が必要な理由の1つは、産業構造の急激な変化。AI(人工知能)やICT(情報通信技術)の発達で、「上司から言われたことを忠実にこなす人材を大量に育てれば、産業が育っていく」という時代ではなくなる。知識をたくさん覚えるだけではなく、未知の問題に果敢に取り組み、主体的に解決法を策定していく人材でなければ、これからの時代は活躍できない。」

③そのためには、大学や高校までの学び、大学入試を変え、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」という学力の3要素を身につけさせ評価していく必要がある。

④具体的には、全問マークシート式の大学入試センター試験に代えて、2020年度からは大学入学共通テストを導入。目玉の1つが、国語と数学に盛り込まれる記述式問題。「長い文章が書けるというのは、論理的に考え、表現できること。」全ての教科で、マーク式問題も残るが、「思考力・判断力・表現力」を測るため、複数の資料を読み解く問題が増える。

⑤英語も、これまでの「読む・聞く」の2技能試験を残しつつ、「話す・書く」を加えた4技能も評価する仕組みに変わる。そのために、英検やTOEIC、GTECなど8種類の民間試験の成績を活用する。受験生は、高校3年の4～12月に受けた試験の成績のうち、2回分までを大学入試センターを通じて大学に提出する。

(★鎌田薫氏は、政府の教育再生実行会議座長として、一連の議論に関わってこられました。)

以上の基調講演を受けて、小中高生が準備すべきことを、それぞれ3人の方がアドバイス!

1 【小学生】 会話やお手伝い 家庭の力で

(プロ家庭教師の安浪京子さん)

大学入試改革で求められる「学力の3要素」のうち「主体性・多様性・協働性」は、「家庭力」にかかっています。そして、家庭でできることは、次の3つです。

①親子の会話を深める。最初から子ども向けの易しい言葉に言い換えるのではなく、大人の言葉で話せば、語彙力や表現力も育ちます。会話のテーマが見つからなければ新聞を活用するのもいいと思います。どの記事に興味があるかや、記事への賛否を話すといいです。

②お手伝い。社会の最小単位である家族の一員だと実感できます。特にお勧めのお手伝いは、料理です。どんな食材を買い、どんな器具で、どう料理するか、という流れには、学力の3要素すべてが詰まっています。

③お子様が熱中している時間を邪魔しない。好きなことをやる中で主体性が生まれ、AI(人工知能)にはできない「0:ゼロから1:イチ」を生み出す力がつきます。

2 【中学生】 体験は机上の学びにも効果

(都立日比谷高校長の武内彰さん)

中学生のうちにしてほしいことは、6つです。

①読書の習慣を通じて豊かな言語環境に触れること。

②英語を実際に使う場面を想定して生きた英語を学ぶこと。

③知識をアウトプットする機会をつくる。日比谷高校では、生徒が関心のある新聞記事を発表する「時事問題3分間スピーチ」を実施。

④「直接体験活動」。ものづくりや職業体験などは、机上での学びの効果を高める。

⑤学習以外に何か1つ取り組む。運動でも芸術でも、できれば集団で行う活動を通して、人間性も高めること。

⑥基本的な生活習慣の徹底。時間を守り、身だしなみを整え、あいさつをする。こうした基本を備えた人は、伸びていく要素がある。

3 【高校生】 現代の「読み・書き・そろばん」を

(早稲田大学前総長の鎌田薫さん)

①高校時代は大学時代とともに、ものごとに自由にチャレンジできる貴重な時間。入試に役立つことだけでなく、生涯にわたって発展する基礎となる力をつけられるように、様々なことを体験する。

②そのためには一人ひとりに適した教育環境の創出が大切。何かを無理にやらせるのではなく、主体的に学ぶ習慣を身につけさせてあげることが理想。

③早稲田大学では、基礎的なスキルとして、実践的な英語や文章の作成法、情報・統計、数学などを習得させている。これらは、現代型の「読み・書き・そろばん」と考えている。

④正解が一つではない問題に取り組むための思考力を鍛える。

【8月の主な行事】

13日(火)～16日(金) 部活動停止期間

13日(火)～15日(木) 学校閉庁日

19日(月)・21日(水)・26日(月)
全学年学習会 9:00～11:00

20日(火) 各学年登校日(9:00、各教室)
全学年学習会 10:00～12:00

22日(木) 部活動停止(午後)

23日(金) 部活動停止(9:00～17:00)

26日(月) 1年 ダンス伝達講習会(笹中)
9:00～13:00(予定)

28日(水) 2学期始業式 ※給食なし
専門委員会、ノ一部活デー

29日(木) 課題テスト(5教科)
2学期給食スタート

29日(木)・30日(金)・9月2日(月)
教育相談(3日間)

さあ、明日から夏休みだー！



さて、いよいよみなさんお待ちかねの、39日間の夏休みがスタートします。部活動をはじめこんなこともやってみたい、いろんなところへ行ってみたい・・・など、楽しい計画が一杯で、心はウキウキだと思います。でも、その一方で、「大変だなー」とみんなを少し悩ませる宿題もありますよね。その宿題にまつわる、興味深い内容のお話を見つけましたので、1学期最終号で紹介いたします。夏休みに入る前に、少し気楽に、家の人と一緒に読んでみてください。

「抱っこ宿題」、忘れんでね！

福岡県のみやま市に、イケメン保険代理店の平田哲也さんがお客様向けに『やべがわ新聞』という「ひとり新聞」を発行している。これがなかなかオモロイ。裏面には「親バカコーナー」があって、こんな話が載っていた。

今年の6月のある日のこと、小学校1年生の三女、こはるちゃんが学校から帰ってくるなり、嬉しそうにこう叫んだ。「お父さ〜ん、今日の宿題は抱っこよ！」

何と、こはるちゃんの担任の先生、「今日はうちのりから抱っこしてもらって来てね」という宿題を出したのだった。

「よっしゃあ！」と、平田さんはしっかりこはるちゃんを抱きしめた。

その夜、こはるちゃんは、お母さん、おじいちゃん、ひいおばあちゃん、2人のお姉ちゃん、合計6人と「抱っこ宿題」をして、翌日、学校で「抱っこのチャンピオン」になったそう。

数日後、平田さんはこはるちゃんに聞いてみた。「学校のお友だちはみんな抱っこ宿題をしてきとったね？」

すると、こんな悲しい答えが返ってきた。「何人か。してきとらんやった」。でも、世の中捨てたもんじゃない。次に出てきた言葉に救われた。「だけん、その子たちは先生に抱っこしてもらった」

ステキな先生だなあと思った。こういう宿題が出せるのは小学校1、2年ぐらいだろう。小学校3年生以上になると恥ずかしがってしないから。

人間には抱っこが必要である。幼少期にしっかり抱っこしてもらった子は、そのときの体の柔らかさも、温もりも、覚えていないが、潜在意識が記憶している。

さあ、ここから話は一気に精神分析医・フロイトの話に飛躍する。

抱っこは身体的に密着した状態である。当然、赤ん坊はその密着状態が心地良いわけで、少しでも親から離れると泣き叫んだりする。

歩けるようになると、ちょっとずつ親の懐から離れるようになるのだが、まだまだ親の目の届く範囲内だ。

3歳くらいから本格的な親子分離が始まる。同時に、子どもの心に芽生えるのが複雑な二面性だ。すなわち、「抱っこされたい。でも拘束されたくない。」「自由に遊びたい。でも親から離れたくない。」「親がうざったい。でも親にしがみつきたい。」

幼児は、この心の葛藤を繰り返しながら少しずつ親から離れ、そして親が近くにいなくてもそれに耐えられる力を獲得していく。この力を獲得するために欠かせない条件が、それ以前にどれだけ抱っこされてきたか、である。

乳幼児期にたっぷり愛情を注がれてきた記憶があると、帰りたい時にいつでも親(あるいは親の代わりになる人)のところに戻れるという安心感が、心の真ん中に出来上がる。そういう子は、それ以降、自立に向かって「人生のコマ」を次の発達段階に進めることができるのである。

幼少期にやり忘れた「抱っこ宿題」は、思春期に歪んで出てくる。男の子は、ずっと母親に抱っこされたいままであり続けたり、女の子は、親以外の大人にまで抱っこしてもらいたい、という気持ちが大きくなっていったりする……。

「抱っこ宿題」は、子どもにではなく、親に課せられた「宿題」だったのだ。

『日本一心を揺るがす新聞の社説』(ごま書房新書)

みやざき中央新聞編集長 水谷もりひと 編 より

夏休みを5倍充実させる7つのポイント

1. 午前中を有効活用して、2時間の学習時間を確保する。
2. 計画表に、生活・学習の毎日の記録をつける。早寝・早起き・朝ごはん！三食固定！
3. 夜11時以降の夜ふかしは絶対しない。スマホ・ゲーム・LINEなどのコントロール！
4. 部活動、ラジオ体操、プールなど、運動を必ず取り入れる。
5. 毎日欠かさず行う家の仕事をひとつはつくっておく。
6. 今日できることを明日にのばすな。積み残しが積もれば山となる！
7. 中だるみしそうな時は、家族、友人、先生からのアドバイスを素直に受ける。



★では8月28日(水)2学期始業式(まちがえないように!)に、健康な身体と夏休みの学習が定着している健康な頭脳を身につけたみなさんに会うのを楽しみにしています。